

学会彙報

日本仏教学会

昭和四十五年度の日本仏教学会学術大会が、十月二十三日・二十四日の両日にわたり、身延山短期大学を会場として開催された。本学がこの学会の開催校となったのは、二度目であるが、今回は十月二十二日の理事懇親会を含めて次の通り三日間の日程で盛会のうちに開催された。

○理事懇親会（十月二十二日）

学術大会の前夜、加盟各大学の理事を招待して、理事懇親会を端場坊で開催した。本学の藤井日静学長から歓迎の辞が述べられ、西部常務理事の挨拶があり、終始なごやかなうちに終了。

○学術大会（十月二十三日・二十四日）

研究発表は、「仏教と教育の諸問題」を共同研究課題として、各大学の代表者により、次の通りにおこなわれた。

十月二十三日（金）

第一会場（二〇四号室） 九時三十分～十二時

一、学問寺の変遷 金岡秀友（東洋大）

二、禅林における作務教育について 平田高士（花園大）

三、近代曹洞宗における隨身制 横井覚道（駒沢大）

四、普知識について 坂東性純（大谷大）

五、山家学生式の一私見 森 観濤（叡山学院）

午後の部 十三時～十六時

一、鎌倉仏教における教育的人間観 竹内明（仏教大）

二、ナーマサンギティにおける伝達について 蜜波羅圭之助（東北大）

三、一乗思想展開の一考察 佐々木孝憲（立正大）

四、身延山における檀林教育について 林 是幹（身延山短大）

五、日蓮聖人の門弟教育と 渡辺宝陽（立正大）

六、原始仏教における教育思想 水野弘元（駒沢大）

第二会場（三〇一号室） 九時三十分～十二時

一、教育政策と仏教 末光 議史

——幼稚園教育をめぐって——（駒沢女子短大）

二、ヨーガにおける師 今西順吉（北海道大）

三、ヨーガ行法における知と行 高木神元（高野山大）

四、法華経における格例法について 戸田宏文（九州大）

五、文武―パラモンとクシャトリヤ 原 実（東京大）

午後の部 十三時～十六時

一、援助的人間関係における経験・意識・表現の一致について 西光 義勲（竜谷大）

二、近代における仏教教育の問題 斉藤 昭俊（大正大）

三、教育作用における仏教的要素

太田祐周・大竹鑑（大谷大）

四、宗門大学の使命

―京都女子大学の場合を中心として― 長安章俊（京都女子大）

五、本願寺における特殊教育

―明治期を中心として― 織田 顕信（同朋大）

六、仏教のもつ教育的課題

山崎 昭見（竜谷大）

十月二十四日（土）

第一会場 九時三十分～十二時

一、近世初期における浄土宗の教育

―特に十八檀林の成立を中心として― 玉山成元（大正大）

二、近代中国における僧教育について 牧田諦亮（京都大）

三、浄土教的人間形成

香川 孝雄（仏教大）

四、仏教精神と教育 塚越千代巳（種智院大）

第二会場 九時三十分～十二時

一、阿闍梨と弟子について 高田仁覚（高野山大）

二、教育体系としての仏教 藤田清（四天王寺女子大）

○理事 会（十月二十三日・二十四日）

理事会は、研究発表のおこなわれた二十三日と二十四日の両日にわたり、本学の会議室において、正午より一時までの間に開催された。

議題は「次年度開催校の件」や「統一研究テーマの件」などで、昭和四十六年度は、京都の仏教大学で、「仏教と政治・経済」というテーマのもと、実施されることに決った。

日蓮宗教学研究発表大会

第二十三回日蓮宗教学研究大会は、十月二日三日の両日にわたり、本学を会場として、開催された。

第一日目の十月二日は午前八時半から、大講堂において開会式がおこなわれ、室住一妙会長の挨拶に始って、本学

々長藤井日静総裁、立正大学長坂本日深顧問等の挨拶がそれぞれあって、研究発表に入った。

午後は一時半より、「教団論」の共同テーマで、高橋堯慧師・丸山照雄師・三瓶巖厚師の三講師による特別発表があった。教団論について、活潑な質疑応答もあり、熱のこもった研究大会であった。この後、五時より会員懇親会が開かれ、終始なごやかな内に第一目を終え、翌二日目は午前中一般の研究発表があり、最後に立正大学仏教学部長野村耀昌副会長の閉会の辞をもって、二日間にわたる大会を終了した。

尚、二日目に長井弁順師が、「三秘の序列について」という注目すべき発表をおこない、閉会後も有志による研究協議がなされた。

「三秘序列について」

室 住 一 妙

長井氏の御発表のあと、質問時間の時二之部師が立って宗務院に上申したらどうか？という提議があった。そこで

之はよく吟味してから善処するよう、この大会終了後に有志者にお話し相いを願いたいと頼んだ、が然し、残った人は矢谷・浦上・疋田・室住の四名。そのときの議に本いて資料をリコピーにして送って意見を求めた。しかし、特に意見をよせる人はなかった。ついでの時に茂田井先生に会うて日教研の御意見を話してもらう。「長井師の説は一往もっともで、研究の参考にはなるが、それですぐと、「宗義大綱」を改訂するには及ばない。あの順はただ説明上の便宜に止まるもので、強いて押しつけるものではない。だから長井師の本門戒壇の義分の内容はよい点は包容できよう。云々」

そこで、ここまで扱ってきた私一個の意見としては、「三秘と戒壇」の問題は事、重大であるから、聖誕七五〇を記念して、毎年、まじめな研究を発表していただきたいと念願する。

なお、直接参考資料としてリコピーして送附したものは、
一、長井師の今回の発表論文、
二、全師の棲神廿五号掲載の「本門戒壇の性格」

三、全師が昭和四十四年十月四日付茂田井教亨教授に質問書を出された、その返書。(十月廿七日付)

四、宗務院発行「宗義大綱」の「三秘」の項四頁。以上である。

日本印度学仏教学会

第二十一回日本印度学仏教学会の学術大会は、花園大学を当番校として、七月十一日、十二日の両日にわたり、開催され第一部会から第八部会にわかれて、それぞれ熱心な研究発表がおこなわれた。

本学からの研究発表者は、次の通りであった。

一、日蓮教学における浄土と穢土

上田 本昌

— お 願 い —

◎本誌は「会員制」となっております。会費は年額千円です。発行のつど同封の振替用紙をご利用の上、ご送金下さい。

◎お知り合いの方々の中で、まだ入会されていない方には、ぜひご入会下さるようお勧め下さい。